

特別委員会報告

競馬事業調査特別委員会

競馬事業調査特別委員会は6月21日に開催され、市長、副市長のほか、岩手県競馬組合から常勤副管理者等の出席を求め、平成23年度の岩手競馬の開催について、今年度の開催に至った経過について、他の主催者からの支援の状況について、開幕から現在までの発売状況について、及び水沢競馬場でのレース開催の見通しについて調査しました。

平成23年度の収支見通しは、震災の影響により開催日数の減、発売施設の減、消費支出の減要因などから、岩手競馬発売額が年間



今後の動向を調査する競馬事業調査特別委員会

ベースで半分程度と見込んでいたが、他の地方競馬主催者からの支援、具体的には受委託の料率の見直しや、発売日あるいは発売レースの拡大などの支援、更にはJRAからの支援により、収支均衡の実現について見通しが立ちました。また、震災復興に寄与する活動として、職員による被災地でのボランティア活動、騎手部会と楽天競馬の協賛による復興支援レースの開催による義援金の拠出、また騎手が被災地を訪れての復旧支援活動などを行っており、積極的な被災地支援活動を実施しています。

東日本大震災による大きな被害がある中で、平成23年度の岩手競馬がスタートしており、今後の動向についてさらに調査の必要があることから、委員長の「今議会で継続審査とし閉会中も審査したい」という提案があり全会一致で承認されました。

東日本大震災調査特別委員会

5月23日及び6月21日に委員会を開催、6月6日及び7日には小委員会による現地調査及び被害状

況のとりまとめを行いました。5月23日の委員会では、市長・副市長及び関係する部長の出席を求め、被害状況の詳細について、災害復旧工事のスケジュールについて、被災者支援の概要とスケジュールについて、復旧支援における問題点について、災害義援金の活用について等調査しました。6月21日の委員会においては、市長・副市長及び関係する部長の出席を求め、災害義援金の活用について、自主防災組織の震災時の対応について、農地及び道路等被害の現状と整備復旧の見通しについて、災害対策本部と現地対策本部との連携について、東日本大震災に係る災害廃棄物処理事業について等調査しました。また小委員会による現地調査の報告を受け、市内における各施設の被災状況について委員全員が共通理解を深めました。なお、震災被災地の早期復旧・復興及び被災者の生活再建のため、国の責任による迅速かつ継続的・長期的な復興支援や原発事故の早期収束に全力で取りくむよう要望する意見書を国に提出することを確認しました。今後さらに調査の必要があることから、議会閉会中も調査したいという提案があり全会一致で承認されました。

震災からの復旧・原発からの撤退

国会議員へ要望活動

7月5日渡辺議長、中澤副議長、震災特別委員会の及川梅男委員長、佐藤修孝副委員長が県選出国会議員を訪れ、6月定例会で可決し国へ提出した意見書（P17・18）の実現を働き掛けるため要望書を手渡しました。訪問した国会議員は衆議院議員の階猛、畑浩治、黄川田徹、小沢一郎、菊池長右工門の民主党5氏、参議院議員の平野達男、主浜了、藤原良信の民主党3氏、衆議院議員で共産党の穀田恵二氏（奥州市出身）の9氏。

各議員へは、東日本大震災による住宅や公共施設、農地の被害などの状況を説明し、早期復旧や行政支援の必要性も訴えました。



小沢一郎衆議院議員へ要望事項を説明する渡辺議長（議員会館）